



●安曇地区●
669世帯
男女 622人
605人
合計 1227人
R8.3.1現在

のりくら暮らし支援プロジェクト

乗鞍高原大野川区町会で活動する「のりくら暮らし支援プロジェクト」では、移住希望者が安心して地域に根づける環境づくりに取り組んでいます。松本デュアルスクール制度の開始以降、乗鞍に長期滞在する家族が増えており、これまで3年間にわたり受け入れ



▶屋外での体験学習

や生活支援を行ってきました。民間でも賃貸物件の発掘を進め、宿泊施設を家族向けのシェアハウスやコンドミニアムとして活用するなど、滞在の受け皿づくりを進めています。

また、子どもたちの放課後の居場所づくりや未就学児親子の交流の場づくりにも取り組む、現在は市の制度を活用した放課後子ども教室や公民館事業として活動しています。暮らしの様子はWEBメディア「のりくらnote」で発信し、都内や現地での移住相談会も実施しています。

今後は、共同生活から戸建て住宅へ段階的に移行できる住まいの仕組みづくりを進め、孤立しない移住支援体制を整えていきたいと考えています。空き家の活用にもつなげながら、地域に新しい暮らしの形を広げていきます。

チームリーダー 大須田



▶東京での説明会の様子



▶学校での活動の様子

まっもとのおじですくすく子育てサロンののりくら自然保育木の子・安曇公民館

令和7年度は計8回開催しました。その様子を一部掲載します。大勢のご参加、ありがとうございます！来年度もよろしくお願ひします！



▲プール



▲郷土食づくり



▲一ノ瀬のお散歩



▶子育て中のパパ・ママ、これから子育て予定の方々も教室で体験です



▲栄養士さんに教わるクリスマスお菓子づくり



安曇小中学校

元気な
安曇っ子

乗鞍

じょう
ほう

ただけれど、「人のよさ」も乗鞍の魅力だということ。これらの活動を通して、自分で考えて行動する力を付けられたと思うので良かったです。

九年間を振り返って

中学校卒業を迎えて、あっという間だった九年間を振り返りたい。

小学校一年生の頃は何が何だかわからないまま学校に行って、保育園の頃のように一日中遊んでいた。小二、小三では同じ学年より下の子たちと学び合う機会が多かった。小四、小五の頃は高学年としての責任を感じるようになり、小六では児童会長として多事多端な毎日を送った。当時の僕は自信家で目立ちたがりだったため、そんな自分の性



▲小学校1年生の時



▲中学校3年生

格のせいではないいろいろな人に迷惑をかけることも一回や二回ではなかった。

中学校に入学して驚いた事は時間に対して厳しいことだった。小学校では許されていた数分の遅刻は中学校では許されない。そのような空気感もあり、時間を意識して行動する習慣を身につける事ができた。また、仲間と協力して「安曇祭」を準備していくなかで、一つの事を皆で作りに上げる難しさや楽しさを学ぶ事ができた。

九年間で経験した楽しかった事、うまくいかなかった事、

総合の時間を振り返って

私は今年度の総合の時間で、乗鞍の魅力を再発見した

と思う、「自分なりの乗鞍の魅力は何か」というテーマで活動してきました。今年度

全てひっくりかえり今の自分がある。そして今の自分があるのは支えてくれた仲間、先生方、地域の方、そして家族のおかげだと改めて感じた。仲間と離れる事は寂しいが、高校生活でまだ見ぬ自分を創り上げていきたい。

中学三年 高田希星



やった活動は三つあります。一つ目は、意見ボックスです。観光センターに意見ボックスを置かせてもらい、観光客の方にとっての魅力を教えてもらいました。観光客の方の意見を聞いたことで、今まで私気が付かなかった魅力にも気づくことができました。

二つ目は、散策です。自分も歩いてみて魅力を感じようと思ったので、一ノ瀬草原と学校周辺を散策しました。歩いてみると、景色がすごくきれいで、景観を守るための仕事の大切さがよく分かりました。

三つ目は、聞き込みです。地域のいろいろな立場の人に電話でお話を聞きました。印象に残ったことは、お話を聞かせてもらったみなさんが共通して、おもてなしの心が大切だと教えてくれたことです。お話を聞かせてもらったことで、「この地域の人のよさ」も魅力だと気づくことができました。

この三つの活動を通して出した結論は「自然」ももちろん



中学一年 齋藤美冬